

【コラム】

## なぜ探究活動が評価されるの？

知っていますか？ 入試が大きく変わり始めています。

その中で、池田高校が力を入れている探究活動が、大きく評価されるようになってきました。

探究活動は知っていますね？

「総合的な探究の時間」（主に月曜7限）や「課題研究」（主に火曜7限）などで行われる、自分たちで設定した課題の解決に向け、探究し続けていく学習活動のことを指します。

池田高校では、学習指導要領が変わる以前、10年も前からこの「探究活動」に力を入れて取り組んできました。

その探究活動が、なぜ高く評価されるのでしょうか？

\*

その前に、探究しさえすれば、何でも評価されるのでしょうか？

そんなはずありませんね。



単にネットで検索し、出てきた情報をまとめただけの「調べ学習」に対する評価は、逆にかなり低くなっています。生成AIに適切なプロンプトを入力できれば、あっという間にできてしまうからです。

では、どんな探究活動が評価されるのか？

それは、なぜ探究活動が高く評価される理由と、密接な関係があります。

\*

ウクライナ・ガザ・イランなど相次ぐ戦争、地震や異常気象など気候変動、生成AIなどテクノロジーの進展……、10年前にこんな事態がやって来ると、誰に予測ができたでしょう。

つまり、今そしてこれからの時代が、圧倒的に予測不可能であるからです。

これから先の対応を考える時、今「正解」だと言われている答えが通用するとは限りません。

答えの前に、そもそも問い自体が、全く新たなものである可能性さえあるのですから。

\*

ディスプレイや紙の上、想像の上だけで「知ったつもり」になるのではなく、実際に現地へ行き、

その人と話し、自分の実感を通して経験から学ぶこと。

何が答えなのか、何を選べば良いのか、どうすることが良いのか、誰に聞けば良いのか、そもそも何を考えることが目的だったのか、……。

迷い、戸惑い、失敗し、同じような所を行ったり来たりする中で、「わからなさ」を楽しむこと。

自分一人の閉じた世界の中で行うのではなく、誰かと共有・議論して、自分の視野と世界を広げること。

池田高校では、そうした経験と対話を通して学ぶ「活動」を目指して、それらを重視した「探究活動」を行っています。

\*

その中では、時に「ムダなこと」をしたように感じることも、何をしているのかわからなくなることも、自分の想像していた仮説をひっくり返され途方に暮れることもあるでしょう。

そこから何を学ぶか、そこで何を発見するか、そうした力が問われているのです。

\*

当然のことながら、大学の先生は自分の専門分野について、圧倒的な知識を持っています。

その道のプロである職業人も同じです。

ですから、受験生に期待するのは単なる知識ではありません。

経験・体験とそれに基づいた問いです。

もちろん、ものごとを考えるためには、ある程度知っていなければなりません。しかし、知識自体が重要なのではなく、知識を基に考え・行動し・検証することが重要なのです。

そして、その結果、どんな問いを持ち、それにどう立ち向かっていこうとしているのか、それが評価されているのです。

さて、みなさんはどんな問いに出会っているでしょうか？

あるいは、これからどんな問いに出会えるでしょうか？

#### 【参考文献】

- ・登本洋子ほか『改訂版 学びの技』（玉川大学出版部／2023年）
- ・片岡則夫『マイテーマの探し方 探究学習ってどうやるの？』（ちくまQブックス／2021年）
- ・河野哲也『問う方法・考える方法』（ちくまプリマー新書／2021年）

観察する



フィードバック

